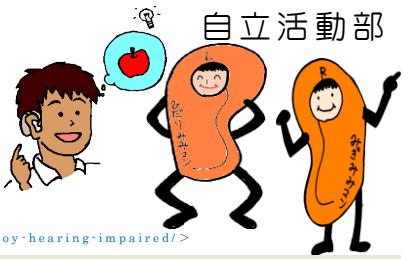
平成30年度　第２号
長崎県立ろう学校
自立活動部



聴覚障害者の自立

＜https://ohmiminavi.co.jp/column/2018/08/16/employ-hearing-impaired/＞

聞こえにくい。ろう難聴者のそんな悩みは、健聴者にとって理解しにくい。例えば声の大きさが同じでも、単語やフレーズによって聞き取りにくいこともある。細かなコミュニケーションが求められることが多い仕事の現場では、ろう難聴者が周囲と意思疎通を図れないことに神経をすり減らし、せっかく勤め始めても離職してしまうケースが後を絶たないという。

民間企業に雇用されている障害者は14年連続で過去最高を更新し、昨年6月時点で49万6千人。障害者雇用促進法の改正で、今年4月からは企業に義務付けられている雇用労働者に占める障害者の割合が 2％から2.2％に引き上げられた。障害者への就労支援はハローワークや地域障害者職業センター、地域の障害者就業・生活支援センターなどが手がけている。

「毎年、聴覚支援学校からろう難聴の卒業生が巣立ち、**雇用率こそ障害種別の中では高いのですが、せっかく採用された企業での定着率が良好とは言えない現状があります**」

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

担当者の方は、受け入れる職場とろう難聴者側の両方に原因があると考えている。「先行研究のほとんどが、ろう者の離職率、転職率の高さを指摘し、原因として職場におけるコミュニケーションの難しさを挙げている。受け入れ側の無理解という職場環境に問題がある一方で、**ろう難聴者側も自分が求める配慮をうまく説明できないために、会社側の理解が得られにくい状況を作り出しているケースも多く見られます**」こうした背景もあり、就職しても離職、転職を繰り返すろう者は後を絶たない。個別に事情は異なるものの、企業側が求める能力や知識と、ろう難聴者の現状理解と、個人の能力や知識とのギャップを埋めることが重要だ。

引用・参考文献：朝日新聞出版編（2018）　AERA（アエラ）2018年 10/1 号　朝日新聞出版

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

現在本校では就職試験を受け、就職の内定をいただいているところです。内定をいただいた後も自立に向け卒業まで指導を続けています。卒業後の安定した人生を送るために何をすればよいのかを考えるために必要な情報を得て学校生活を生かしてほしいと思います。

元 JAXA 職員としての私・・・これからの私・・・

2年前に長崎県立ろう学校で JAXA 職員として、宇宙授業や講演を行いました。あれからもう2年近く経ちます。本当にあっという間ですね。今年の6月に学生の頃から、ずっと憧れていた JAXA を退職することになりました。なぜ、退職するのか。いろいろな人から意見があったけれど、私には今年の7月に新しい命が産まれました。JAXA の仕事をしながら育児できるのか、そのバランスをとることが難しく思いました。仕事なのか、家族なのか、どちらをとるのか、すごく悩みましたが、私は家族の時間を選ぶことにしました。次の仕事を探すことも「挑戦」の1つでもあります。年齢的にも次の仕事を探すのは大変だと思うけれど、その「挑戦」を楽しんでいこうと思います。

写真: 元 JAXA 職員
春日　晴樹　さん

春日晴樹さんのプロフィール

１９８２年夏生まれ（両親は、ろう者）
大塚ろう学校　　幼稚部～小学３年
赤塚新町小学校　小４～小６（普通の学校）
下谷中学校　　中１～中３（難聴学級）
石神井ろう学校　高１～高３／専１～専２
沖縄リハビリテーション福祉学院　２７～２９才
電力関係会社に就職。
日本放浪⇒沖縄移住⇒世界一周
帰国後、電機関係会社に就職後、
宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）に入社。
2018 年６月　宇宙航空研究開発機構（ＪＡＸＡ）退職

春日晴樹さんからのコメント

私は生まれた時から耳が聞こえません。風の音も。波の音も。自分の声さえも聞こえない。「健常者がいる世界」は過酷な世界。その世界で生きていくことは本当に大変。聞こえないことで、どれだけ自信を失くしてきたのか。聞こえないことで苦しむ場面にたくさん出会います。だって、聞こえないんだもの。けれど、聞こえないことは恥ずかしいことじゃないと思う。だから…「聞こえなくてもできる」ことを周りに伝えなきゃいけないのかなって思う。2年前の講演で、大事にしていることを伝えました。

「聴覚障害」＝「14の心」＝「傾聴」

「相手にどう思われるか？」よりも「相手のことをどう思うか？」それが生きることで大事だと思います。「壁を乗り越えなきゃ」というよりも、できることからやろうと少しずつ少しずつ解決していくと知らぬ間に乗り越えることができます。「健常者がいる世界」で「生きる」ということは聞こえない私たちにとって「挑戦」であり、「冒険」でもある。聞こえない私たち、健常者、どう、仲良く共存できるか、どう、お互い、助け合えるか、これから生まれてくる聞こえない人たちのためにも、考えていく必要があります。

人は、それぞれの道があります。自分の道は自分で歩くしかない。人生に地図なんてなし、自分で切りひらき、道を作っていくしかない。

私は考えるよりも単純に「音のない世界」を楽しめばいいのかなって思う。聞こえない人しか見られない世界があるし、聞こえない分、聞こえる人よりも見る時間が長い。そう思うことで、聞こえる人より、聞こえない私たちの方がたくさん観ることができていると優越感を得ることができると思う。「冒険」といっても、答えはどこかにあるのではなく、自分の中にある。自分の心の中のどこかに“必ず”答えがある。その答えにたどり着けるのは大事なのは日々の積み重ね。1日10分でもいいから続けていくこと。

私は、ほとんどのことが10年もかかっています。8歳の時に日本を知りたいと思い始めて10年後に日本放浪。17歳で初めて沖縄に行って、沖縄に住みたいと思い始めて10年後に沖縄移住。20歳の時に世界を見てみたいと思い始めて10年後に世界一周。22歳の時にJAXAに入社したいと思い始めて10年後にJAXA入社。その毎日の努力が積み重なって、夢が叶うことができるし、努力も報われることができます。でも努力したからって全てが報われるわけではない。「努力した時間」よりも「どう努力したのか？」それによって大きく変わってくるのではないかと思う。

目標達成や夢が叶うまで何度もぶつかっていく。悩んでいる時間がもったいない。楽して叶うものはないし、傷付いていく覚悟がなければ、目標達成はできなし、叶わないと思う。夢が叶った景色を見られるのは、その人しか見られない。その人しかわからない。その景色が見たいと、挑戦し続ければ、いつかその景色が見られると思うと私はたくさん頑張れる。

そんな生き方、考え方をしたら“我儘”じゃない？って思うかもしれない。「わがまま」と聞くとどうしてもマイナスなイメージしかない。でも見方を変えると「我儘」が「我がまま」に見ることもできるのではないでしょうか？

「我がまま」＝「自分のありのまま」という自分の人間性を出すことが大事なのではないでしょうか？自分らしく。だから「わがまま」でいいのでは？

次の仕事はどうなっているのか、いつかお話しできたらいいなと思っています。みなさん、それぞれの道がどこまで続いているのかは誰にもわからないけど良い出会いがありますように。